

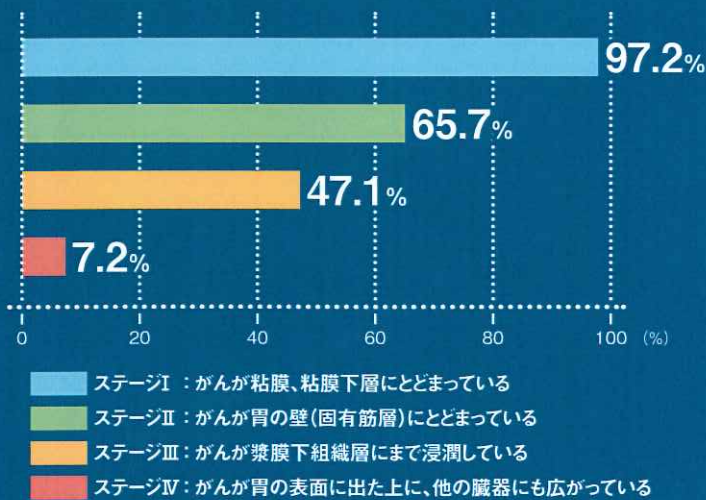
対策型胃がん検診に 内視鏡検査が推奨

従来の胃部X線検査(バリウム検査)に加えて、新たに「**胃内視鏡検査**」が対策型検診(市区町村が行う住民検診)として推奨されました。胃がん検診制度の変更により、**50歳以上の方は2年に1回、胃内視鏡検査か胃部X線検査のどちらかを受診するようになります。**※

※ 当分の間、胃部X線検査については40歳代に対し実施可 ※ 当分の間、胃部X線検査については年1回実施可 (平成28年2月4日健発0204第13号厚生労働省健康局長通知「がん予防重点健康教育及び検診実施のための指針の一部改正について」より)

胃がん検診として受診する場合は、市区町村や医療保険者が指定医療機関を定めている場合があります。詳しくは、職場の健康管理窓口、またはお住まいの市区町村のがん検診担当窓口にお問い合わせください。

胃がんのステージ別5年相対生存率



出典：「全国がん(成人病)センター協議会の生存率共同調査(2004-2007年集計)」による

大切なのは
早期発見、
早期治療。



毎年約5万人の日本人が、胃がんで、命を落としています。

内視鏡検査では、体内の様子がそのままモニターに映し出され、医師がリアルタイムに詳細な観察を行うことができます。内視鏡検査により、病変を早期に発見できれば、その段階で治療することで、完治も期待できます。「おなかの健康ドットコム」では、医師監修の下、がんの早期発見において有効な検査手段である内視鏡検査を、分かりやすく解説しています。

詳しくは
コチラ

内視鏡で見つける!
おなかの健康 健康応援サイト
ドットコム

<http://www.onaka-kenko.com>

おなかの健康

検索



OLYMPUS

Your Vision, Our Future